

「とやまエネの会」会報 vol.32

2021 年度活動報告

■設立30年記念式典 7月25日(日)開催

会長挨拶

とやまエネの会は1996年6月に設立し、今年、記念すべき30年の節目を迎えました。この間、女性の視点で「見る、聞く、知る、そして話し合う」をキーワードに見学会や学習会などの様々な活動を続け、皆さまとともに歴史を積み重ねてまいりました。近年はコロナ渦で、私たちの暮らしや環境やエネルギー事情も大きく変化しており、私たちの生活と環境・エネルギー問題は切り離すことができません。



政岡会長ご挨拶とスローガン・ロゴの発表

これからも一人ひとりが正しい知識と考えを持ち、適切に情報を見極めて行動していくことが大切です。

設立30年を機に、新たな気持ちで学び、様々な活動を行ってまいりたいと思いますので今後ともとやまエネの会への積極的な参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

来賓挨拶



北陸電力(株)執行役員 上野富山支店長



あすかエネルギーフォーラム 秋庭理事長
(ビデオメッセージをいただきました)

【設立 30 年を記念して制作した「スローガンとシンボルロゴ」】



【スローガン】

共に考え、未来につなぐ ~次の世代に美しい地球を~

【シンボルロゴ】

共存をイメージしたモチーフで、地球の繋がりを意識した円を基本フォルムとしています。

※アールブリュット作家の末永征士氏のデザインを起用

■環境とエネルギーを考える講演会 7月25日(日)開催

演題 気象キャスターと考える 異常気象と環境問題

講師 蓬萊 大介氏(気象予報士・防災士)

開催方法 「会場」と「オンライン」の2方式 ※会場はオクスカナルパークホテル富山

参加者 160名(会場61名、オンライン99名)



【講演内容 抜粋】

ここ10年間の天気は非常に極端になっていて、地球上で、大雨、干ばつ、猛暑、寒波が頻発している。世界全体の気温も高い水準で推移しており、日本海の海面水温も高い傾向にあるため、生態系に影響がないかを心配している。

地球温暖化は、人間の活動である工業化が原因の一つ。化石燃料の使用や森林伐採などによって、気温が上昇する温室効果ガスが発生するため、将来的には別のエネルギーを使っていきたいというのが世界の潮流になっている。

日本は世界第3位の経済大国だが、エネルギー自給率が1割程度しかなく、残りの9割の燃料を海外から輸入している。日本列島は、気象や地理的条件が他の国とは違うため、温室効果ガスを出さない再生可能エネルギーを日本のエネルギーのメインにするのは、現段階ではなかなか難しい。そのため、日本のエネルギー基本計画では、再生可能エネルギーを最大限取り入れて様々な電源を組み合わせるエネルギーミックスの実現を目指している。

私たちにできることは、適応策(気候変動に備える)と緩和策(温室効果ガスを減らすこと)。気象庁の雨雲レーダーや国土交通省の河川防災情報など、天気予報をうまく活用してほしい。

注意報や警報、特別警報の意味を理解し、警報が出た時点で考えを災害モードにすることや事前に避難先が安全な場所かどうかをハザードマップで確認し、危険な箇所を知っておくことが大切。

私たちは身近に豊かな自然がある場所に住んでいる。普段から自然に親しみ、時に猛威を振るう自然にも謙虚に向き合い、この豊かな自然環境を次世代に渡していきたいと思う。

■エネとも ぱちカルチャー学習会 12月11日(土)

【第一部】エネルギー・環境講座

演題 持続可能な社会で、豊かな暮らしへ～次の世代に美しい地球をつないでいくために～

講師 松本 真由美氏

(東京大学 教養学部附属教養教育高度化機構 環境エネルギー科学特別部門 客員准教授)

参加者 34名



【講座内容 抜粋】

SDGs とは、世界的な優先課題とあるべき姿を定めた17の目標と169のターゲットで構成され、2030年までの達成を目指す世界共通の目標。経済成長をしていくことが貧困問題を解決していくことにつながることや深刻な水不足が世界共通の課題になっていること、海洋プラスチック問題、世界の電力アクセスのない人の数は2019年で7億5900万人であることなど、それぞれの目標に背景と取り組むべき課題がある。

目標13の「気候変動に具体的な対策を」では、IPCC※が2100年に世界の平均気温が現在(1986～2005年)と比較して、2.6～4.8℃上昇すると予測している。地球温暖化が世界各地の異常気象の頻度と水準を押し上げており、日本でも2018年(西日本豪雨等)と2019年(台風15号、19号)は、風水害の損害保険の支払いが1兆円規模となっていることから、経済的な損失も大きくなっている。

IPCCの第6次報告書では、温暖化の原因は人間の活動が原因と疑う余地がなく、気候変動の影響を大きく回避するためには、CO₂排出量を2050年頃には実質ゼロにする必要があると公表。CO₂を削減していくためにはエネルギー部門を変換していくことが重要だ。

IPCCは、再生可能エネルギーや水素、原子力を脱炭素エネルギーと位置付ける。多くの国が2050年カーボンニュートラル宣言を行い、脱炭素戦略を策定している。脱炭素は省エネとエネルギー転換が必要であり、世界で多くの投資をされているのが、再生可能エネルギーや交通輸送の電化、熱の転換である。

今後の温暖化対策では、これまでの技術にとらわれず、新たな技術で未来を作っていくことが非常に重要となってくる。SDGsの17の目標は「パートナーシップで目標を達成しよう」ということなので、一人ひとりの考えや力を合わせていくことが大切。未来に向かって、何ができるのかを一緒に考えていきたい。

※世界気象機関および国連環境計画により1988年に設立された政府間組織で、195の国と地域が参加している。世界中の科学者の協力の下、気候変動に関する最新の科学的知見の評価を提供している。

【第二部】教養講座

演題 かんたん美ヨガ ～椅子に座りながら、全身・顔ヨガで心身のリフレッシュを～
講師 桜井 利江子氏(STUDIO PREMA インストラクター)



- ・ 肩回りや背中をほぐし、背筋を伸ばしながら、ヨガの呼吸法で新陳代謝を高めるとともに、顔全体の筋肉を使う顔ヨガも取り入れ、長引くコロナ渦でのストレス解消と心身のリフレッシュを行いました。

■ Web 配信講座(エネの会ホームページで配信) 2月配信

北陸電力グループのカーボンニュートラルへの取組み



地球温暖化のしきみや2050年カーボンニュートラル宣言を受けて策定した「北陸電力グループのカーボンニュートラル達成に向けたロードマップ」について紹介しています。(5分42秒)

【動画でザックリ解説】カーボンニュートラルって？



カーボンニュートラルのしきみをテンポよく、簡潔にわかりやすく解説しています。(3分28秒)

出典：日本原子力文化財団 WEB サイト「エネ百科」

お知らせ

とやまエネの会のホームページ「暮らしお役立ちワンポイント情報キャッチ！」では、過去に開催した学習会での講師によるお得情報を掲載しています。気軽にできるちょっとしたお得情報です。ぜひご覧ください！

- ・ヨガのポーズと効用
- ・植物の飾り方
- ・和菓子の作り方
- ・水引アクセサリーの楽しみ方等



以上